

---

第3回 GP フォーラム

「メンタルフレンド活動による  
子ども支援と地域福祉展開」

---

－ プログラム －

会 期 2010年3月13日（土）

会 場 新潟グランドホテル「悠久の間」

主 催 新 潟 青 陵 大 学

## ✿ 新潟青陵大学 第3回現代GPフォーラムについて -----

当フォーラムは文部科学省によって現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）として選定された新潟青陵大学の「メンタルフレンド活動」を広く県内の医療・教育・福祉関係者と地域の皆様にご理解いただき、学生参加型の地域福祉活動の円滑な展開を図っていこうとするものです。

本日は、前半の基調講演を受けて、その具体的な実践としての新潟青陵大学生による地域福祉貢献活動の3年間の歩みとその成果を活動受入機関の皆様と本学学生・教員からご報告させていただきます。

## ✿ プログラム -----

13:30	開会のごあいさつ 清水 不二雄（新潟青陵大学長）
13:45～15:00	基調講演 「子ども援助の本質 ～ 理解すること・つなぐこと」 村瀬嘉代子氏（北翔大学大学院 教授 日本臨床心理士会会長）
15:00～15:10	休憩
15:10～16:30	成果報告 「メンタルフレンド活動の意義とその成果～学びと実践の現場報告」  (1)司会進行 押木 泉（新潟青陵大学 教授：現代GP取組責任者）  (2)発表者（発表順） 鈴木 秀子 氏（新潟青陵大学 現代GP特別研究員） 石黒 礼子 氏（新潟青陵大学メンタルフレンド学生） 中村 恵子 氏（新潟青陵大学 教授） 田代 健一 氏（新潟市児童相談所 所長補佐） 伊藤 信行 氏（新潟県児童養護施設「若草寮」 主査）



## ✿ 現代GP 成果報告

### 「メンタルフレンド活動の意義とその成果～学びと実践の現場報告」

#### ✿ 発表者 1

#### 「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム採択からの3年間の振り返り」

新潟青陵大学 現代GP 特別研究員 鈴木 秀子 氏

当大学の「メンタルフレンド活動による地域福祉展開」は優れた教育プロジェクトとして平成19年度に文部科学省に採択され19年10月から22年3月まで活動を支援されることとなった。最終年度終了にあたり3年間をふりかえり今後の課題と方向を検討したい。

1. メンタルフレンド活動とは
2. 活動機関と活動内容
3. 三年間をふりかえって
  - 平成19年10月～20年3月(強化・拡大期)
    - ・学内組織編成、活動計画作成
    - ・全学生の意識調査、制度説明
    - ・研修、先進地調査
    - ・活動機関の拡大、連絡調整(特に病院関係)
  - 平成20年4月～21年3月(確立・充実期)
    - ・活動機関、参加学生の増加
    - ・活動の定着、多様化
  - 平成21年4月～22年3月(定着・自立期)
    - ・活動の定着
    - ・取り組み期間終了後も活動を継続してゆくための方向を定める
    - ・学外への働きかけ
4. まとめ ー 最終年のおわりに
  - ①活動を通して
  - ②これからの課題



## 発表者2

### 「学生の視点からメンタルフレンド活動を振り返る」

新潟青陵大学 メンタルフレンド学生 石黒 礼子 氏

#### 活動内容

1. 小学校の「放課後子ども教室」の学生スタッフ
  - (1) 放課後一緒に遊ぶ (週3回)
  - (2) イベントの企画 (年3回程度)
  - (3) 大学でのクリスマス会の開催
2. メンタルフレンド研修会
  - (4) 学生の活動報告
  - (5) 教員や外部講師による講座
  - (6) 施設見学、利用者との交流
  - (7) 他大学との交流
3. メンタルフレンドの役割  
学生だからできること
4. 活動で学んだこと  
人との交流、自分自身の成長


「新潟青陵大学メンタルフレンド活動の効果と課題」

新潟青陵大学 教授 中村 恵子 氏

1. メンタルフレンド活動の効果の評価方法
  - ・活動実績（参加学生の活動状況、各グループによる活動）
  - ・質問紙調査（学生アンケート、教職員アンケート、フォーラムアンケート）
  - ・面接調査（学生へのインタビュー、活動機関の職員へのインタビュー）
  - ・外部評価（外部評価会議）
2. 学生への質問紙調査による効果の評価
  - ・対象：本学の1～4年生
  - ・方法：自尊感情尺度（ローゼンバーグによる尺度の邦訳版）  
社会的スキル尺度 kiss-18（Kikuchi's Social Skill Scale）
  - ・結果：活動への参加状況と自尊感情・社会的スキルとの関連
3. 面接調査による病院施設における効果の評価
  - (1) 学生への面接調査
    - ・対象：病院で複数回活動を行った学生4名
    - ・方法：半構造化面接法によるインタビュー  
修正版グランデッド・セオリー・アプローチによる分析
    - ・結果：活動を支えるものや阻害するもの、活動継続要素など
  - (2) 職員への面接調査
    - ・対象：病院看護師1名、臨床心理士1名
    - ・方法：半構造化面接法によるインタビュー  
逐語録もしくは調査内容をまとめたものを内容ごとに要約
    - ・結果：病児や保護者への効果、活動における課題
4. 今後に向けて
  - (1) 効果
  - (2) 課題

引用文献


- 1) 新潟青陵大学現代GP効果評価グループ. 平成19年度新潟青陵大学現代GP効果評価報告書. 2008.
- 2) 新潟青陵大学現代GP効果評価グループ. 平成20年度新潟青陵大学現代GP効果評価報告書. 2009.
- 3) 河内浩美他. 小児病棟におけるメンタルフレンドの経験. 新潟青陵学会第2回学術集會集録. 2009.

 発表者4

「新潟市児童相談所におけるメンタルフレンド活動」

新潟市児童相談所 所長補佐 田代 健一 氏

1. 活動状況
2. 対象児童
3. 活動内容
  - (1)通所によるグループ活動
  - (2)通所による所内個別活動
  - (3)通所による所外個別活動
  - (4)一時保護所における学習ボランティア
4. 活動の効果
  - (1)楽しい時間を他者と共有することは極めて治療的
  - (2)家族以外の他者とのコミュニケーションが拡大
  - (3)公共交通機関を利用して単独通所や街中活動が拡大
5. まとめ

 発表者5

「児童養護施設 若草寮におけるメンタルフレンド活動  
～活動内容とその成果・今後の課題等」

新潟県児童養護施設「若草寮」 主査 伊藤 信行 氏

1. 実習生・メンタルフレンド・ボランティア ー三者の違い
  - (1)オリエンテーション
  - (2)活動内容
  - (3)フォロー体制
  - (4)活動記録
2. メンタルフレンド活動の成果
  - (1)高学年児童に個別に深く関わることができ、その児童にとって施設職員や保護者以上に近い存在になれた事例
  - (2)メンタルフレンドが集団で小行事を自主的に企画し児童の余暇が充実した。
  - (3)学生同士の横のつながりを作るために学校の垣根をこえた懇親会を企画実施
3. 活動を継続するために
4. 学生ボランティアの今後の展開

「な～んした」でいこう。



新潟青陵大学